

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2022年3月3日(03.03.2022)



(10) 国際公開番号

WO 2022/044249 A1

- (51) 国際特許分類:
A63H 33/00 (2006.01) G09B 19/00 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2020/032556
- (22) 国際出願日: 2020年8月28日(28.08.2020)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (71) 出願人: 日本電信電話株式会社 (NIPPON TELEGRAPH AND TELEPHONE CORPORATION) [JP/JP]; 〒1008116 東京都千代田区大手町一丁目5番1号 Tokyo (JP).
- (72) 発明者: 渡邊 直美 (WATANABE, Naomi); 〒1808585 東京都武蔵野市緑町三丁目9番1号 NTT 知的財産センタ内 Tokyo (JP).

小林 哲生(KOBAYASHI, Tessei); 〒1808585 東京都武蔵野市緑町三丁目9番11号 NTT 知的財産センタ内 Tokyo (JP).

(74) 代理人: 中尾 直樹, 外(NAKAO, Naoki et al.); 〒1600022 東京都新宿区新宿三丁目1番22号 新宿NSOビル6階 Tokyo (JP).

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, IT, JO, JP, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ,

(54) Title: EMOTION INFORMATION PRESENTATION ARTICLE, COVER FOR EMOTION INFORMATION PRESENTATION ARTICLE, AND PATTERN PAPER FOR EMOTION INFORMATION PRESENTATION ARTICLE

(54) 発明の名称: 感情情報提示用品、感情情報提示用品用カバー、及び感情情報提示用品用型紙

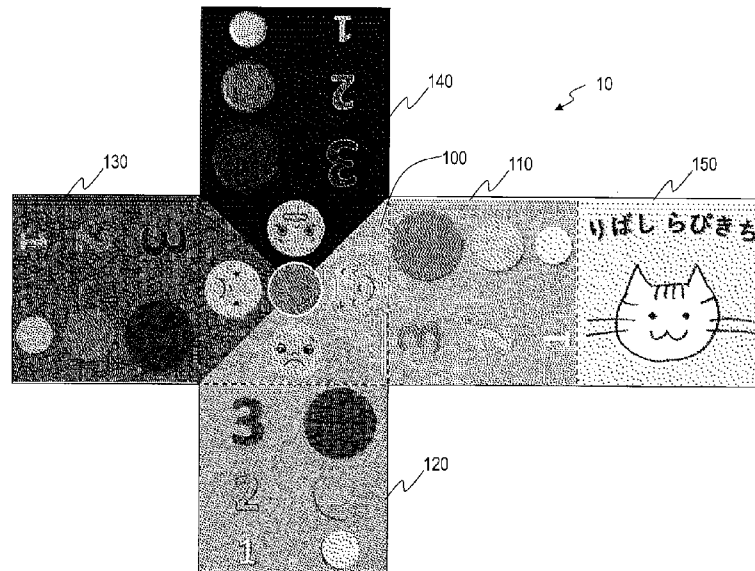


図2

(57) Abstract: The present invention assists an infant to be able to understand or present an emotion. This emotion information presentation article (10) is a solid of substantially regular hexahedron. The six sides of the surface of the solid include at least an emotion selection side (100) and four emotion degree selection sides (110, 120, 130, 140). The emotion selection side (100) includes four emotion areas. Each of the emotion areas is composed of an emotion face area in which



WO 2022/044249 A1

NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT,
QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL,
ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG,
US, UZ, VC, VN, WS, ZA, ZM, ZW.

- (84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

- 一 国際調査報告 (条約第21条(3))

a picture obtained by simulating a face when different emotions are exhibited is displayed, and an emotion background area to which a predetermined base color is given as a color corresponding to the emotions. Each of the emotion degree selection sides (110, 120, 130, 140) is a side which abuts any emotion area of the emotion selection side (100), is given with the base color given to the emotion background area of the emotion area, and includes a set of a plurality of displays showing the degrees of different magnitudes.

(57) 要約: 幼児が感情を理解したり提示したりできるようになることを支援する。感情情報提示用品(10)は、略正六面体の立体物である。立体物の表面の6個の面には、感情選択面(100)と4個の感情用程度選択面(110, 120, 130, 140)とを少なくとも含む。感情選択面(100)は4個の感情領域を含む。感情領域それぞれは、相異なる感情のときの顔を模した絵が表示された感情顔領域と、その感情に対応する色として予め定められた基調色が与えられた感情背景領域とにより構成される。感情用程度選択面(110, 120, 130, 140)それぞれは、感情選択面(100)のいずれかの感情領域と接している面であり、その感情領域の感情背景領域に与えられた基調色が与えられ、互いに異なる大きさの程度を表す表示の複数個による組を含む。

明 細 書

発明の名称：

感情情報提示用品、感情情報提示用品用カバー、及び感情情報提示用品用型紙

技術分野

[0001] 本発明は、幼児の感情の発達、すなわち、幼児が感情を理解したり提示したりできるようになること、を支援する技術に関する。

背景技術

[0002] 感情を可視化することで感情の発達を支援する技術としては、例えば非特許文献1や非特許文献2に開示されたムードメーターがある。ムードメーターは、気持ちの良さを横軸とし、エネルギーの大きさを縦軸とした2次元グラフ上の位置で感情を表すものである。横軸と縦軸によって区分された4個の領域それぞれは、右上領域が喜びに対応し、左上領域が怒りに対応し、右下領域が楽しさに対応し、左下領域が哀しさに対応している。右上領域は黄色を基調とされており、左上領域は赤色を基調とされており、右下領域は緑色を基調とされており、左下領域は青色を基調とされており、非特許文献1のように各領域全体が同じ色であることもあり、非特許文献2のように各領域が更に縦線と横線で囲まれた長方形の複数個の部分領域に分けられていることもあり、各部分領域は同じ基調色の中で異なる輝度や彩度が採用されていることもある。非特許文献3には、子どもが入室する際にムードメーター上のその時の感情を表したところにマグネットを貼らせることで、子ども自身に感情をラベリングさせることで、自身の感情を理解できるようになる可能性があることが記載されている。

先行技術文献

非特許文献

[0003] 非特許文献1: Emotionally Intelligent School, LLC, “The Mood Meter”
、[online]、[令和2年5月28日検索]、インターネット<URL: <https://app>

s.apple.com/jp/app/id825930113?ign-mpt=uo%3D4>

非特許文献2: Teachers Pay Teachers, “Mood Meter: A Socio-Emotional Resource”、[online]、[令和2年5月28日検索]、インターネット<URL: <https://www.teacherspayteachers.com/Product/Mood-Meter-A-Socio-Emotional-Resource-3207663>>

非特許文献3: 古賀浩嗣@みんなの成長応援団長, “ムードメーターで感情理解”、[online]、[令和2年5月28日検索]、インターネット<URL: <https://note.com/kogamouse/n/n2efdac020ef8>>

発明の概要

発明が解決しようとする課題

- [0004] ムードメーターでは喜怒哀楽の感情を効率良く可視化することができる。また、非特許文献3には、ムードメーターを用いることで子どもが自身の感情を理解できるようになる可能性があることも示唆されている。しかしながら、感情のカテゴライズをまだはっきりとできない幼児の場合には、ムードメーターとマグネットを与えたところで、感情がどのような状況であるのかを提示することが難しいという課題がある。
- [0005] 本発明は、このような課題を鑑みてなされたものであり、幼児が感情を理解したり提示したりできるようになることを支援するための物品を提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

- [0006] 上記の課題を解決するために、この発明の第一の態様の感情情報提示用品は、第1から第C（Cは2以上の整数）のC個の感情のカテゴリ（「第cカテゴリ」という。cは1以上C以下の各整数。）を対象とする立体物の感情情報提示用品であって、立体物の表面には、感情選択面と、第1感情用程度選択面から第C感情用程度選択面のC個の感情用程度選択面を少なくとも含み、第1の基調色から第Cの基調色のC個の基調色それぞれ（「第cの基調色」という）は互いに異なり、感情選択面は、感情選択面の輪郭線のうちの略同じ長さで互いに異なる部分を輪郭線に含む略合同の領域である第1感情

領域から第C感情領域のC個の感情領域を少なくとも含み、第1感情領域から第C感情領域のC個の感情領域のそれぞれ（「第c感情領域」という）は、第c感情領域が対応する感情のカテゴリである第cカテゴリの感情のときの顔を模した絵が表示された領域である第c感情顔領域と、第cの基調色が与えられた領域である第c感情背景領域と、により構成され、第1感情用程度選択面から第C感情用程度選択面のC個の感情用程度選択面は、略合同であり、第1感情用程度選択面から第C感情用程度選択面のC個の感情用程度選択面のそれぞれは、感情選択面の第c感情領域と接している面であり、第cの基調色が与えられ、互いに異なる大きさの程度を表す表示の複数個による組を含む。

[0007] この発明の第二の態様の感情情報提示用品は、第1から第C（Cは2以上の整数）のC個の感情のカテゴリ（「第cカテゴリ」という。cは1以上C以下の各整数。）を対象とする立体物の感情情報提示用品であって、立体物の表面には、感情選択面領域と、第1感情用程度選択面領域から第C感情用程度選択面領域のC個の感情用程度選択面領域を少なくとも含み、第1の基調色から第Cの基調色のC個の基調色それぞれ（「第cの基調色」という）は互いに異なり、感情選択面領域は、感情選択面領域の輪郭線のうちの略同じ長さで互いに異なる部分を輪郭線に含む略合同の領域である第1感情領域から第C感情領域のC個の感情領域を少なくとも含み、第1感情領域から第C感情領域のC個の感情領域のそれぞれ（「第c感情領域」という）は、第c感情領域が対応する感情のカテゴリである第cカテゴリの感情のときの顔を模した絵が表示された領域である第c感情顔領域と、第cの基調色が与えられた領域である第c感情背景領域と、により構成され、第1感情用程度選択面領域から第C感情用程度選択面領域のC個の感情用程度選択面領域は、略合同な領域であり、第1感情用程度選択面領域から第C感情用程度選択面領域のC個の感情用程度選択面領域のそれぞれは、感情選択面領域の第c感情領域と接している面領域であり、第cの基調色が与えられ、互いに異なる大きさの程度を表す表示の複数個による組を含む。

発明の効果

[0008] 本発明の感情情報提示用品を用いることにより、幼児が感情を理解したり提示したりできるようになることを支援することができる。

図面の簡単な説明

[0009] [図1]第1実施形態の感情情報提示用品10を例示した斜視図である。

[図2]第1実施形態の感情情報提示用品10の表面を例示した展開図である。

[図3]第1実施形態の感情情報提示用品10の感情選択面100を例示した図である。

[図4]第1実施形態の感情情報提示用品10の第1感情用程度選択面110及び第2実施形態の感情情報提示用品20の第1感情用程度選択面領域210を例示した図である。

[図5]第2実施形態の感情情報提示用品20を例示した斜視図である。

[図6]第2実施形態の感情情報提示用品20の表面を例示した展開図である。

[図7]第2実施形態の感情情報提示用品20の感情選択面200を例示した図である。

[図8]感情情報提示用品10の第2感情選択面100'を例示した図である。

[図9]感情情報提示用品20の第2感情選択面200'を例示した図である。

[図10]第4実施形態の感情情報提示用品用カバー11を例示した図である。

発明を実施するための形態

[0010] 本発明の感情情報提示用品は、立体物における面の配置を生かして、各面または／および各面領域の配置と、各面または／および各面領域における表示と、に技術的特徴を持たせたものであり、これらの技術的特徴を有することにより幼児が感情を理解したり提示したりできるようになることを支援できる物品である。以下、感情情報提示用品、感情情報提示用品の利用方法、感情情報提示用品を製作するためのカバー及び型紙、について説明する。

<第1実施形態>

第1実施形態の感情情報提示用品10とその利用方法について説明する。

[0011] [感情情報提示用品10]

第1実施形態の感情情報提示用品10は、図1に斜視図を例示する略正六面体の形状の立体物であり、当該立体物の表面に、図2に展開図を例示する通りの感情選択面100、第1感情用程度選択面110、第2感情用程度選択面120、第3感情用程度選択面130、第4感情用程度選択面140、非選択面150の6個の略正方形の面を有する。

[0012] 各図における破線は面の境界を説明するために便宜上記載した補助線であり、各図における一点鎖線は領域の境界を説明するために便宜上記載した補助線である。各補助線は説明目的で便宜的に記載したものであるもので、全ての境界に記載してあるわけではない。また、一部の補助線は、視認し易さを考慮して境界線上ではなく境界線の近傍に記載してある。なお、「略正六面体」、「略正方形」のように「略」を付してある文言は、その文言通りであると幼児に知覚されればよく、厳密に文言通りであることは必須ではない。当然ながら、「略正六面体」の具体例は「正六面体」であり、「略正方形」の具体例は「正方形」であり、これらと同様に、後述する「略」を付してある文言の具体例は、付してある「略」を取り去った文言である。これらは後述する各実施形態でも同様である。

[0013] [感情情報提示用品10の素材、大きさ]

感情情報提示用品10の素材の限定はないが、感情情報提示用品10は、幼児自身が用いるものであるもので、幼児の親しみやすさと幼児自身による持ち運びを考慮して柔軟な素材で構成するとよく、例えば内部にスポンジや綿や空気を充填したり表面を布としたりするとよい。また、感情情報提示用品10の大きさは、幼児自身が操作可能な範囲であれば限定はないが、幼児自身による持ち運びや操作が容易に行えるようにするのがよく、例えば各辺を約9cmとするとよい。

[0014] [感情選択面100]

感情選択面100は、幼児が把握できるようになるべき主要な4個の感情である「嬉しい」、「悲しい」、「怒っている」、「怖がっている」、の何れか、すなわち、主要な4個の感情のカテゴリの何れか、を幼児自身が選択

するための面である。感情選択面100は、図3に例示する通り、第1感情領域101、第2感情領域102、第3感情領域103、第4感情領域104を含み、中立領域105を含んでいてもよい。

[0015] 第1感情領域101、第2感情領域102、第3感情領域103、第4感情領域104は、感情選択面100の輪郭線の略4分の1を輪郭線に含む略合同な領域（すなわち、略同じ形状で略同じ大きさの領域）である。より具体的には、第1感情領域101、第2感情領域102、第3感情領域103、第4感情領域104は、感情選択面100と接する4個の面それぞれと感情選択面100とが共有する4個の辺のうちのそれぞれ異なる1個の辺を辺として含む略合同な領域である。感情選択面100が中立領域105を含まない場合には、例えば、第1感情領域101、第2感情領域102、第3感情領域103、第4感情領域104のそれぞれは、感情選択面100の2個の略対角線により区分された略直角二等辺三角形の領域である。また、図3に例示するように感情選択面100が中立領域105を含む場合には、例えば、中立領域105は感情選択面100の略重心（略対角線の交点）を中心とする略円形の領域であり、第1感情領域101、第2感情領域102、第3感情領域103、第4感情領域104のそれぞれは、感情選択面100の略対角線により区分された略直角二等辺三角形の領域から中立領域105に含まれる部分を除いた領域である。

[0016] 第1感情領域101は、「嬉しい」ときの顔を模した絵が表示された領域である第1感情顔領域1011と、「嬉しい」感情に対応する色として予め定められた第1の基調色が与えられた領域である第1感情背景領域1012と、により構成されている。第2感情領域102は、「悲しい」ときの顔を模した絵が表示された領域である第2感情顔領域1021と、第1の基調色とは異なる色であり「悲しい」感情に対応する色として予め定められた第2の基調色が与えられた領域である第2感情背景領域1022と、により構成されている。第3感情領域103は、「怒っている」ときの顔を模した絵が表示された領域である第3感情顔領域1031と、第1の基調色とも第2の

基調色とも異なる色であり「怒っている」感情に対応する色として予め定められた第3の基調色が与えられた領域である第3感情背景領域1032と、により構成されている。第4感情領域104は、「怖がっている」ときの顔を模した絵が表示された領域である第4感情顔領域1041と、第1の基調色とも第2の基調色とも第3の基調色とも異なる色であり「怖がっている」感情に対応する色として予め定められた第4の基調色が与えられた領域である第4感情背景領域1042と、により構成されている。すなわち、第1から第4の基調色は互いに異なる。

[0017] 第1感情顔領域1011、第2感情顔領域1021、第3感情顔領域1031、第4感情顔領域1041は、感情の特徴ではない部分に幼児が興味を示さないようにするとよく、略合同の領域（すなわち、略同じ形状で略同じ大きさの領域）であることが望ましく、各領域に表示される顔を模した絵は、各感情の特徴のみに異なりを有する絵であることが望ましい。各基調色は任意であるが、例えば、第1の基調色を黄色、第2の基調色を青色、第3の基調色を赤色、第4の基調色を黒色、とするなどのように、幼児が容易に識別でき、かつ、幼児が容易に発話できる名称の色とするのがよい。

[0018] 中立領域105は、第1から第4の基調色の何れとも異なる予め定められた第5の基調色が与えられた領域である。中立領域105は、選択されない領域としてもよいし、「嬉しい」、「悲しい」、「怒っている」、「怖がっている」の何れでもないことを幼児自身が選択するための領域としてもよい。中立領域105を選択されない領域とする場合には、図3に例示するように、顔を模した絵の表示を含まないようにする。中立領域105を「嬉しい」、「悲しい」、「怒っている」、「怖がっている」の何れでもないことを幼児自身が選択するための領域とする場合には、中立領域105は、顔を模した絵の表示を含まないようにしてもよいし、「無感情」の顔を模した絵が表示されていてもよい。中立領域105に「無感情」の顔を模した絵を表示する場合には、中立領域105は、「無感情」の顔を模した絵が表示された領域である第5感情顔領域と、「無感情」に対応する色として予め定められ

た第5の基調色が与えられた領域である第5感情背景領域と、により構成されていればよい。第5の基調色の例は緑色である。中立領域105を選択される領域とする場合の第5の基調色は、第1から第4の基調色と同様に、幼児が容易に識別でき、かつ、幼児が容易に発話できる名称の色とするのがよい。

[0019] [第1感情用程度選択面110、第2感情用程度選択面120、第3感情用程度選択面130、第4感情用程度選択面140]

第1感情用程度選択面110、第2感情用程度選択面120、第3感情用程度選択面130、第4感情用程度選択面140は、感情選択面100を用いて幼児自身が選択したカテゴリの感情の大きさを、幼児自身が選択するための面である。第1感情用程度選択面110、第2感情用程度選択面120、第3感情用程度選択面130、第4感情用程度選択面140それぞれは、感情情報提示用品10の6個の面のうちの感情選択面100と接する4個の面のうちの1個の面であり、感情選択面100の輪郭線のうちの対応するカテゴリの感情領域の輪郭線である部分を輪郭線として含む面である。言い換えると、第1感情用程度選択面110、第2感情用程度選択面120、第3感情用程度選択面130、第4感情用程度選択面140それぞれは、感情情報提示用品10の6個の面のうちの感情選択面100と接する4個の面のうちの1個の面であり、感情選択面100の4個の辺のうちの、対応するカテゴリの感情領域の輪郭線にも含まれる辺、を辺として含む面（感情選択面100にある対応するカテゴリの感情領域と辺を共有する面）である。第1感情用程度選択面110、第2感情用程度選択面120、第3感情用程度選択面130、第4感情用程度選択面140は、略合同である。以下では図4を参照して第1感情用程度選択面110について詳細に説明する。第2感情用程度選択面120、第3感情用程度選択面130、第4感情用程度選択面140は、第1感情用程度選択面110とは各表示と各領域の色が異なるだけであり、構成及び特徴は第1感情用程度選択面110と同様である。

[0020] [[第1感情用程度選択面110]]

第1感情用程度選択面110は、感情情報提示用品10の6個の面のうちの、感情選択面100と接する4個の面のうちの、感情選択面100の4個の辺のうちの第1感情領域101が含む辺を含む面、すなわち、第1感情領域101と接している面である。第1感情用程度選択面110は、第1感情用程度選択表示111と第1感情用程度選択背景領域112により構成されている。第1感情用程度選択背景領域112は、感情選択面100を用いて自身が選択した「嬉しい」感情の領域との連続性を幼児が容易に把握できるように、感情選択面100の第1感情背景領域1012と同じ第1の基調色が与えられた領域である。第1感情用程度選択表示111は、「嬉しい」感情の大きさ（すなわち、嬉しさの程度、嬉しさの度合い）を幼児自身が選択するための表示であり、大きさを表す表示の複数個による組を含んで構成される。組に含まれる複数個の表示は、互いに異なる大きさの程度を表す表示である。組に含まれる大きさの程度を表す表示は、幼児が容易に選択できるように、「小」と「大」の2個、「小」と「中」と「大」の3個、とするとよい。

[0021] 大きさを表す表示の複数個による組の例は、図4に二点鎖線で囲んだ右側に示すような、所定の第1の大きさの所定形状の図形111a-1（以下、「小図形」ともいう）、第1の大きさより大きい所定の第2の大きさの当該所定形状の図形111a-2（以下、「中図形」ともいう）、第2の大きさより大きい所定の第3の大きさの当該所定形状の図形111a-3（以下、「大図形」ともいう）の3個による組のように、互いに異なる大きさの略相似な図形の複数個による組である。図形の形状は任意であるが、幼児が形状そのものに大きな興味を示すことなく把握できる形状がよく、例えば丸や星形などのように、幼児用の玩具などで多く用いられている形状とするとよい。また、図4の例のように、小図形111a-1、中図形111a-2、大図形111a-3は、第1感情用程度選択背景領域112の色（すなわち、第1の基調色）と同系統の色（例えば、第1の基調色の彩度を異ならせた色）とするとよく、小図形111a-1、中図形111a-2、大図形111

a-3の順に濃い色となるようにするとよい。

[0022] 大きさを表す表示の複数個による組の別の例は、図4に二点鎖線で囲んだ左側に示すような、所定の第1の値を表す数字111b-1（以下、「小数字」ともいう）、第1の値より大きい所定の第2の値を表す数字111b-2（以下、「中数字」ともいう）、第2の値より大きい所定の第3の値を表す数字111b-3（以下、「大数字」という）の3個による組のように、互いに異なる数値の複数個による組である。所定の各値は任意であるが、幼児がなるべく容易に把握できる値がよく、図4の例のように、小数字111b-1を1として、小数字111b-1、中数字111b-2、大数字111b-3の順に1ずつ値が大きくなるようにするとよい。また、図4の例のように、小数字111b-1、中数字111b-2、大数字111b-3の順に数字の大きさが大きくなるようにするとよい。また、図4の例のように、小数字111b-1、中数字111b-2、大数字111b-3は、第1感情用程度選択背景領域112の色（すなわち、第1の基調色）と同系統の色（例えば、第1の基調色の彩度を異ならせた色）とするとよく、小数字111b-1、中数字111b-2、大数字111b-3の順に濃い色となるようにするとよい。

[0023] 大きさを表す表示の複数個による組の更に別の例は、所定の第1の個数（例えば1個）の所定形状の図形の集合、第1の個数より多い所定の第2の個数（例えば2個）の当該所定形状の図形の集合、第2の個数より多い所定の第3の個数（例えば3個）の当該所定形状の図形の集合、の3個の集合による組のように、互いに異なる個数の所定形状の図形の集合の複数個による組である。図形の形状や色については、上述した小図形111a-1、中図形111a-2、大図形111a-3と同様とするとよい。

[0024] なお、組に含まれる複数個の表示として「小」「大」の2個を用いる場合であれば、互いに異なる大きさの略相似な図形の2個による組としては、所定の第1の大きさの所定形状の図形、第1の大きさより大きい所定の第2の大きさの当該所定形状の図形の2個による組を用いればよく、互いに異なる

数値の２個による組としては、所定の第１の値を表す数字（例えば１）、第１の値より大きい所定の第２の値（例えば２）を表す数字の２個による組を用いればよく、互いに異なる個数の所定形状の図形の集合の２個による組としては、所定の第１の個数（例えば１個）の所定形状の図形の集合、第１の個数より多い所定の第２の個数（例えば２個）の当該所定形状の図形の集合の２個の集合による組を用いればよい。

[0025] 第１感情用程度選択表示１１１は、大きさを表す表示の複数個による組を複数組含んでいてもよく、図４の例のように、略相似な図形の複数個による組と、互いに値が異なる数字の複数個による組と、を含んでいてもよい。すなわち、第１感情用程度選択表示１１１は、「嬉しい」感情の大きさ（すなわち、嬉しさの程度、嬉しさの度合い）を幼児自身が選択するための表示であり、大きさを表す表示の複数個による組を１組以上含んで構成される。ただし、第１感情用程度選択表示１１１が大きさを表す表示の複数個による組を複数組含む場合には、全ての組における大きさを表す表示の個数を同じにするのが望ましい。

[0026] [[第２感情用程度選択面１２０]]

第２感情用程度選択面１２０は、感情情報提示用品１０の６個の面のうちの、感情選択面１００と接する４個の面のうちの、感情選択面１００の４個の辺のうちの第２感情領域１０２が含む辺を含む面、すなわち、第２感情領域１０２と接している面である。第２感情用程度選択面１２０は、第２感情用程度選択表示と第２感情用程度選択背景領域により構成されている。第２感情用程度選択背景領域は、感情選択面１００を用いて自身が選択した「悲しい」感情の領域との連続性を幼児が容易に把握できるように、感情選択面１００の第２感情背景領域１０２と同じ第２の基調色が与えられた領域である。第２感情用程度選択表示は、「悲しい」感情の大きさ（すなわち、悲しさの程度、悲しさの度合い）を幼児自身が選択するための表示であり、第２の基調色と同系統の色が与えられていること以外は第１感情用程度選択表示１１１と同様の、大きさを表す表示の複数個による組を１組以上含んで構

成される。

[0027] [[第3感情用程度選択面130]]

第3感情用程度選択面130は、感情情報提示用品10の6個の面のうちの、感情選択面100と接する4個の面のうちの、感情選択面100の4個の辺のうちの第3感情領域103が含む辺を含む面、すなわち、第3感情領域103と接している面である。第3感情用程度選択面130は、第3感情用程度選択表示と第3感情用程度選択背景領域により構成されている。第3感情用程度選択背景領域は、感情選択面100を用いて自身が選択した「怒っている」感情の領域との連続性を幼児が容易に把握できるように、感情選択面100の第3感情背景領域1032と同じ第3の基調色が与えられた領域である。第3感情用程度選択表示は、「怒っている」感情の大きさ（すなわち、怒っている程度、怒っている度合い）を幼児自身が選択するための表示であり、第3の基調色と同系統の色が与えられていること以外は第1感情用程度選択表示111と同様の、大きさを表す表示の複数個による組を1組以上含んで構成される。

[0028] [[第4感情用程度選択面140]]

第4感情用程度選択面140は、感情情報提示用品10の6個の面のうちの、感情選択面100と接する4個の面のうちの、感情選択面100の4個の辺のうちの第4感情領域104が含む辺を含む面、すなわち、第4感情領域104と接している面である。第4感情用程度選択面140は、第4感情用程度選択表示と第4感情用程度選択背景領域により構成されている。第4感情用程度選択背景領域は、感情選択面100を用いて自身が選択した「恐がっている」感情の領域との連続性を幼児が容易に把握できるように、感情選択面100の第4感情背景領域1042と同じ第4の基調色が与えられた領域である。第4感情用程度選択表示は、「恐がっている」感情の大きさ（すなわち、恐がっている程度、恐がっている度合い）を幼児自身が選択するための表示であり、第4の基調色と同系統の色が与えられていること以外は第1感情用程度選択表示111と同様の、大きさを表す表示の複数個による

組を1組以上含んで構成される。

[0029] [非選択面150]

非選択面150は、感情情報提示用品10の6個の面のうちの、感情選択面100と接しない面である。非選択面150は、幼児が誤って選択しないように、第1の基調色とも第2の基調色とも第3の基調色とも第4の基調色とも第5の基調色とも異なる所定の第6の基調色が与えられた領域である。例えば、幼児個々に感情情報提示用品10を所有させる場合であれば、非選択面150は所有者個人を特定する情報を記載する領域として利用するとよく、図4の例は幼児の代わりに猫を用いた記載としてあるが、「りばし らぴきち」と所有者名を記載し、所有者の似顔絵を記載してある。このように、非選択面150の基調色を他の基調色と異ならせるだけでなく、所有者自身を特定する情報を記載させておけば、感情やその大きさを選択する際に幼児が誤って選択することはなくなる。なお、感情選択面100の中立領域105を選択されない領域とする場合には、非選択面150の基調色（すなわち、第6の基調色）を中立領域105の基調色（すなわち、第5の基調色）と同じにしてもよい。

[0030] [感情情報提示用品10の利用方法]

感情情報提示用品10は、例えば、幼稚園や保育園などにおける教育や養育の場で各幼児に所有させて利用するとよい。例えば、幼児同士での喧嘩がおきたとき、先生や保育士が幼児に絵本を読み聞かせて主人公の感情を尋ねたとき、幼児が親と一緒に幼稚園や保育園に登園した際に親と離れるのが難しいとき、幼児が精神的に動揺して自身の気持ちをうまく言葉で伝えられないとき、などの、上述した主要な4個の感情などの何らかの感情を幼児が持っているまたは把握していると想定される場面（以下、「イベント時点」という）やその直後に、先生（すなわち、教育者）や保育士（すなわち、養育者）などが当該幼児に対して、後述するステップS1-1とステップS2-1の順に、感情情報提示用品10を用いて感情を提示するように、指示する。なお、先生であるのか、保育士であるのか、先生でも保育士でもないもの

のその時点で教育や保育をする者などであるのかは、感情情報提示用品 10 を利用する場面においては重要ではなく、その場面において対象となる幼児の教育や保育などを行っている者であればよいので、以下では総称して「教育者／養育者」との表記を用いる。

[0031] [感情のカテゴリの選択の指示（ステップ S 1-1）]

教育者／養育者は、対象となる幼児（以下、「対象児」ともいう）に対して、感情選択面 100 を指し示して、感情選択面 100 の中立領域 105 が選択されない領域である場合には感情選択面 100 の第 1 感情領域 101 と第 2 感情領域 102 と第 3 感情領域 103 と第 4 感情領域 104 の 4 個の領域から、感情選択面 100 の中立領域 105 が選択されてよい領域である場合には第 1 感情領域 101 と第 2 感情領域 102 と第 3 感情領域 103 と第 4 感情領域 104 と中立領域 105 の 5 個の領域から、イベント時点において何れの感情であったのか、すなわち、イベント時点における感情のカテゴリ、に対応する領域を指し示すように指示する。例えば、教育者／養育者は対象児に「今、どんな気持ちかな？ どの顔か教えてくれる？」と話しかけることで当該指示を行う。

[0032] [感情の選択（ステップ S 1-2）]

対象児は、ステップ S 1-1 での教育者／養育者の指示に従って、イベント時点において何れの感情であったのか、すなわち、イベント時点における感情のカテゴリ、を指し示す。対象児は、教育者／養育者に感情選択面 100 を指し示されれば感情選択面 100 に着目する。そうすると、感情選択面 100 に垂直な面である第 1 感情用程度選択面 110、第 2 感情用程度選択面 120、第 3 感情用程度選択面 130、第 4 感情用程度選択面 140 は対象児からは視認し辛くなる。従って、本発明の感情情報提示用品 10 を用いることにより、対象児は感情選択面 100 を用いた感情のカテゴリの選択に集中することができる。また、感情選択面 100 の少なくとも第 1 感情領域 101、第 2 感情領域 102、第 3 感情領域 103、第 4 感情領域 104 に顔を模した絵があることで、対象児にとっての感情のカテゴリの選択の難易

度を低くすることができる。また、対象児が選択に迷っている場合には、教育者／養育者は「嬉しかったのかな」、「怒ったのかな」などのようにカテゴリを言葉にして発してもよいし、対象児に「嬉しい顔はどれかな」、「怒った顔はどれかな」、などのようにカテゴリと対応付けられる顔の表情を指し示すように指示してもよいし、対象児に「にこにこかな」「ぷんぷんかな」などのようにカテゴリと対応付けられる擬音語や擬態語を用いて尋ねてもよいし、対象児に「これはどんなときの顔かな」などのように顔の表情と対応付けられるカテゴリを言葉で発するように指示してもよい。

[0033] [感情の大きさの選択の指示（ステップS 2－1）]

教育者／養育者は、対象児に対して、第1感情用程度選択面110、第2感情用程度選択面120、第3感情用程度選択面130、第4感情用程度選択面140の4個の面のうちのステップS 1－2で選択されたカテゴリに対応する面を用いて、選択されたカテゴリの感情のイベント時点における大きさを表す表示を指し示すように指示する。

[0034] [感情の大きさの選択（ステップS 2－2）]

対象児は、ステップS 2－1での教育者／養育者の指示に従って、選択されたカテゴリの感情のイベント時点における大きさ、を指し示す。第1感情用程度選択面110、第2感情用程度選択面120、第3感情用程度選択面130、第4感情用程度選択面140のそれぞれは、感情選択面100における対応する領域である第1感情領域101、第2感情領域102、第3感情領域103、第4感情領域104それぞれと接しており基調色が同じである。従って、感情情報提示用品10を用いることにより、対象児はステップS 1－2からステップS 2－2に移行することが容易となる。また、教育者／養育者がステップS 2－1の指示をしたところで対象児がステップS 2－2の選択をうまくできない場合には、ステップS 1－2におけるカテゴリの選択に誤りがあった場合などが含まれる。このような場合には、対象児はステップS 1－2に戻ってカテゴリを選択し直してからステップS 2－2に移行するとよい。感情情報提示用品10が上述した面構成と基調色構成を採用

したことにより、対象児はステップS 2-2からステップS 1-2に戻り、ステップS 1-2でのカテゴリの選択のし直しを行い、選択し直し後のカテゴリに対応する感情用程度選択面を用いてステップS 2-2を行うことが容易となる。また、対象児は、第1感情用程度選択面110、第2感情用程度選択面120、第3感情用程度選択面130、第4感情用程度選択面140のうちの選択されたカテゴリに対応する面に着目する。そうすると、着目している面以外の面は、着目している面と垂直であるか、着目している面の反対側にあるので、対象児からは視認し辛くなる。従って、感情情報提示用品10を用いることにより、対象児は第1感情用程度選択面110、第2感情用程度選択面120、第3感情用程度選択面130、第4感情用程度選択面140のうちの選択されたカテゴリに対応する面を用いた感情の大きさの選択に集中することができる。

[0035] 感情情報提示用品10は、幼稚園や保育園のクラス全体のような幼児の集団を対象として用いてもよい。ステップS 1-1とステップS 1-2であれば、例えば、教育者／養育者がクラス全体に対して「みんなの今の気持ちは何かな？」と声かけをして、クラスに属する各対象児が、自身の感情情報提示用品10の感情選択面100のうちの自身の感情を表す感情のカテゴリを指さして教育者／養育者に対して見せるようにしてもよい。また例えば、教育者／養育者がクラス全体に対して絵本を読み聞かせているときに、教育者／養育者が所望の場面においてクラス全体に「この子（主人公）は今どんな気持ちな？」と声かけをして、クラスに属する各対象児は、自身の感情情報提示用品10の感情選択面100のうちの自身が主人公の感情であると思う感情のカテゴリを指さして教育者／養育者に対して見せるようにしてもよい。

[0036] なお、幼児によっては、ステップS 1-2において、イベント時点における感情を表す感情のカテゴリを感情選択面100のうちの何れかの感情領域を指し示すのではなく、第1から第4の感情用程度選択面110、120、130、140の何れか1つの感情用程度選択面を教育者／養育者に見せた

り指し示したりする可能性がある。また、幼児によっては、教育者／養育者がステップS 1－1を行った際に、自らステップS 2－2まで進んで、第1から第4の感情用程度選択面110、120、130、140の何れか1つの感情用程度選択面のうちの感情の大きさを教育者／養育者に指し示す可能性もある。これらは、感情情報提示用品10を用いることで幼児の感情の理解が進んでいることや幼児の感情を提示する能力が高まったことに対応する行為であり、集団を対象として感情情報提示用品10を用いている場合であれば、ある幼児が感情用程度選択面に進んでいるのを見た他の幼児の感情の理解や提示の促進に繋がることが期待できる行為である。そのため、教育者／養育者はこのような行為を許容し、幼児の発達に合わせ必要に応じて感情情報提示用品10の使用方を指導することが望ましい。

[0037] <第2実施形態>

第1実施形態の感情情報提示用品10は感情の大きさを幼児自身が選択するときに1個の面を用いるように構成されたものであるが、感情の大きさを幼児自身が選択するときに1個の辺を介した2個の面に跨る面領域を用いるように感情情報提示用品を構成してもよい。この形態を第2実施形態として説明する。

[0038] [感情情報提示用品20]

第2実施形態の感情情報提示用品20は、図5に斜視図を例示する略正六面体の形状の立体物であり、当該立体物の表面に、図6に展開図を例示する通りの感情選択面200、程度選択用第1面260、程度選択用第2面270、程度選択用第3面280、程度選択用第4面290、非選択面250の6個の略正方形の面を有する。

[0039] [感情情報提示用品20の素材、大きさ]

感情情報提示用品20の素材と大きさは、第1実施形態の感情情報提示用品10と同様である。

[0040] [感情選択面200]

感情選択面200は、第1実施形態の感情選択面100と同様に、幼児が

把握できるようになるべき主要な4個の感情である「嬉しい」、「悲しい」、「怒っている」、「怖がっている」、の何れか、すなわち感情のカテゴリ、を幼児自身が選択するための面である。感情選択面200は、図7に例示する通り、第1感情領域201、第2感情領域202、第3感情領域203、第4感情領域204を含み、中立領域205を含んでいてもよい。

[0041] 第1感情領域201、第2感情領域202、第3感情領域203、第4感情領域204は、第1実施形態の第1感情領域101、第2感情領域102、第3感情領域103、第4感情領域104と同様に、感情選択面200の輪郭線の略4分の1を輪郭線に含む略合同な領域（すなわち、略同じ形状で略同じ大きさの領域）である。より具体的には、第1感情領域201、第2感情領域202、第3感情領域203、第4感情領域204は、感情選択面200と接する4個の面それぞれと感情選択面200とが共有する4個の辺それぞれを略2等分した線分8個のうちの頂点を挟んで隣接する2個の線分による組（それぞれ異なる組）を輪郭線として含む略合同な領域である。感情選択面200が中立領域205を含まない場合には、例えば、第1感情領域201、第2感情領域202、第3感情領域203、第4感情領域204のそれぞれは、感情選択面200の向かい合う辺の略中点同士を結ぶ2個の線分で区分された略正方形の領域である。また、図7に例示するように感情選択面200が中立領域205を含む場合には、例えば、中立領域205は感情選択面200の略重心（略対角線の交点）を中心とする略円形の領域であり、第1感情領域201、第2感情領域202、第3感情領域203、第4感情領域204のそれぞれは、感情選択面200の向かい合う辺の略中点同士を結ぶ2個の線分で区分された略正方形の領域から中立領域205に含まれる部分を除いた領域である。

[0042] 第1感情領域201、第2感情領域202、第3感情領域203、第4感情領域204は、形状が異なっていること以外は第1実施形態の第1感情領域101、第2感情領域102、第3感情領域103、第4感情領域104と同様である。すなわち、第1実施形態と同様に、第1感情領域201は第

第1感情顔領域2011と第1感情背景領域2012により構成され、第2感情領域202は第2感情顔領域2021と第2感情背景領域2022により構成され、第3感情領域203は第3感情顔領域2031と第3感情背景領域2032により構成され、第4感情領域204は第4感情顔領域2041と第4感情背景領域2042により構成されており、各感情顔領域と各感情背景領域については第1実施形態の各感情顔領域と各感情背景領域と同様である。

[0043] 中立領域205は、第1実施形態の中立領域105と同様である。

[0044] [第1感情用程度選択面領域210、第2感情用程度選択面領域220、第3感情用程度選択面領域230、第4感情用程度選択面領域240]

第1感情用程度選択面領域210、第2感情用程度選択面領域220、第3感情用程度選択面領域230、第4感情用程度選択面領域240は、第1実施形態の第1感情用程度選択面110、第2感情用程度選択面120、第3感情用程度選択面130、第4感情用程度選択面140と同様であり、感情選択面200を用いて幼児自身が選択したカテゴリの感情の大きさを幼児自身が選択するための面領域である。第1感情用程度選択面領域210、第2感情用程度選択面領域220、第3感情用程度選択面領域230、第4感情用程度選択面領域240それぞれは、感情情報提示用品20の6個の面のうちの感情選択面200と接する4個の面のうちの隣接する2個の面に跨る領域であり、感情選択面200の輪郭線のうちの対応するカテゴリの感情領域の輪郭線である部分を輪郭線として含む面領域である。第1感情用程度選択面領域210、第2感情用程度選択面領域220、第3感情用程度選択面領域230、第4感情用程度選択面領域240は、略合同な領域である。

[0045] [[第1感情用程度選択面領域210]]

第1感情用程度選択面領域210は、程度選択用第1面260と程度選択用第2面270に跨る領域であり、感情選択面200の輪郭線のうちの第1感情領域201の輪郭線である部分を輪郭線として含む面領域、すなわち、第1感情領域201と接している面領域である。第1感情用程度選択面領域

210を程度選択用第1面260と程度選択用第2面270の境界線で折り曲げられた部分を延ばして平面にすると図4に示した第1実施形態の第1感情用程度選択面110と同じになることから分かる通り、第1感情用程度選択面領域210の構成及び特徴は、第1実施形態の第1感情用程度選択面110と同様である。

[0046] [[第2感情用程度選択面領域220]]

第2感情用程度選択面領域220は、程度選択用第2面270と程度選択用第3面280に跨る領域であり、感情選択面200の輪郭線のうちの第2感情領域202の輪郭線である部分を輪郭線として含む面領域、すなわち、第2感情領域202と接している面領域である。第2感情用程度選択面領域220を程度選択用第2面270と程度選択用第3面280の境界線で折り曲げられた部分を延ばして平面にすると第1実施形態の第2感情用程度選択面120と同じになることから分かる通り、第2感情用程度選択面領域220の構成及び特徴は、第1実施形態の第2感情用程度選択面120と同様である。

[0047] [[第3感情用程度選択面領域230]]

第3感情用程度選択面領域230は、程度選択用第3面280と程度選択用第4面290に跨る領域であり、感情選択面200の輪郭線のうちの第3感情領域203の輪郭線である部分を輪郭線として含む面領域、すなわち、第3感情領域203と接している面領域である。第3感情用程度選択面領域230を程度選択用第3面280と程度選択用第4面290の境界線で折り曲げられた部分を延ばして平面にすると第1実施形態の第3感情用程度選択面130と同じになることから分かる通り、第3感情用程度選択面領域230の構成及び特徴は、第1実施形態の第3感情用程度選択面130と同様である。

[0048] [[第4感情用程度選択面領域240]]

第4感情用程度選択面領域240は、程度選択用第4面290と程度選択用第1面260に跨る領域であり、感情選択面200の輪郭線のうちの第4

感情領域 204 の輪郭線である部分を輪郭線として含む面領域、すなわち、第 4 感情領域 204 と接している面領域である。第 4 感情用程度選択面領域 240 を程度選択用第 4 面 290 と程度選択用第 1 面 260 の境界線で折り曲げられた部分を延ばして平面にすると第 1 実施形態の第 4 感情用程度選択面 140 と同じになることから分かる通り、第 4 感情用程度選択面領域 240 の構成及び特徴は、第 1 実施形態の第 4 感情用程度選択面 140 と同様である。

[0049] [非選択面 250]

非選択面 250 は、第 1 実施形態の非選択面 150 と同様である。

[0050] [感情情報提示用品 20 の利用方法]

感情情報提示用品 20 の利用方法は、第 1 実施形態の感情情報提示用品 10 の利用方法と同様であり、第 1 実施形態の感情情報提示用品 10 の利用方法の各感情用程度選択面を各感情用程度選択面領域と読み替えて利用すればよい。

[0051] なお、感情情報提示用品 20 の場合には、第 1 実施形態の感情情報提示用品 10 とは異なり、第 1 感情用程度選択面領域 210、第 2 感情用程度選択面領域 220、第 3 感情用程度選択面領域 230、第 4 感情用程度選択面領域 240 のうちの選択されたカテゴリに対応する面領域に着目しているときに、着目している面領域以外の面領域の一部は視認される。しかし、着目している面領域以外の面領域は、着目している面領域とは基調色が異なる狭い領域であるので、対象児は着目しにくい。従って、第 1 実施形態の感情情報提示用品 10 に代えて感情情報提示用品 20 を用いることによっても、対象児は第 1 感情用程度選択面領域 210、第 2 感情用程度選択面領域 220、第 3 感情用程度選択面領域 230、第 4 感情用程度選択面領域 240 のうちの選択されたカテゴリに対応する面領域を用いた感情の大きさの選択に集中することができる。

[0052] <第 1 実施形態と第 2 実施形態の変形例>

感情情報提示用品 10 は、非選択面 150 に代えて第 2 感情選択面 100

’を備えるようにしてもよい。第2感情選択面100’は、図8に例示するように感情選択面100を鏡像としたものとしてもよいし、感情選択面100を鏡像としたものにおける各感情顔領域の顔を模した絵の向きを上下反転させたものとしてもよい。感情情報提示用品20についても同様であり、感情情報提示用品20は、非選択面250に代えて第2感情選択面200’を備えるようにしてもよい。第2感情選択面200’は、図9に例示するように感情選択面200を鏡像としたものとしてもよいし、感情選択面200を鏡像としたものにおける各感情顔領域の顔を模した絵の向きを上下反転させたものとしてもよい。第2感情選択面100’、200’は、感情選択面100、200と同様に、主要な4個の感情のカテゴリの何れかを幼児自身が選択するための面である。

[0053] <第3実施形態>

上述した感情情報提示用品10と感情情報提示用品20は幼児が把握できるようにするべき主要な4個の感情のカテゴリを対象とするものであったが、更に多くのカテゴリを対象としてもよいし、更に少ないカテゴリを対象としてもよく、対象とするカテゴリ数は複数であればよい。ただし、この場合には感情情報提示用品は略正六面体ではない立体物となる。本実施形態では、略正六面体ではない立体物の感情情報提示用品について説明する。

[0054] [第1例]

C個（Cは3以上の整数）の感情のカテゴリを対象とする感情情報提示用品であれば、例えば略正C角柱の立体物で実現できる。この形態を第1例として説明する。感情情報提示用品は、1個の感情選択面と、C個の感情用程度選択面またはC個の感情用程度選択面領域を含む。感情情報提示用品の残りの1個の面は、非選択面であってもよいし第2感情選択面であってもよい。

[0055] [感情選択面]

感情選択面は、C個の感情のカテゴリの何れかを幼児自身が選択するための面である。感情選択面は、略正C角柱のC+2個の面のうちの対向する略

正C角形の2個の面のうちの1個の面であり、第1から第CのC個の感情領域を含み、中立領域を含んでいてもよい。第1から第CのC個の感情領域は、感情選択面の輪郭線の略C分の1を輪郭線に含む略合同の領域（すなわち、略同じ形状で略同じ大きさの領域）である。例えば、第1から第CのC個の感情領域は、感情選択面と接するC個の面それぞれと感情選択面とが共有するC個の辺のうちのそれぞれ異なる1個の辺を辺として含む略合同な領域である。または、例えば、第1から第CのC個の感情領域は、感情選択面と接するC個の面それぞれと感情選択面とが共有するC個の辺を略2等分した線分2C個のうちの頂点を挟んで隣接する2個の線分による組（それぞれ異なる組）を輪郭線として含む略合同な領域である。

[0056] 第1から第CのC個の感情領域それぞれ（以下、cを1以上C以下の整数として、「第c感情領域」ともいう。）には、当該第c感情領域が対応するカテゴリの感情を表出した顔を模した絵が表示された領域である第c感情顔領域と、第1から第Cのそれぞれ異なる基調色のうちの当該第cのカテゴリに対応する色として予め定められた第cの基調色が与えられた領域である第c感情背景領域と、により構成されている。

[0057] 中立領域は、感情選択面の略重心（略対角線の交点）を中心とする略円形の領域であり、第1から第Cの基調色の何れとも異なる予め定められた第C+1の基調色が与えられた領域であり、「無感情」の顔を模した絵が表示されていてもよい。

[0058] [第1から第Cの感情用程度選択面]

第1から第Cの感情用程度選択面は、感情選択面を用いて幼児自身が選択したカテゴリの感情の大きさを幼児自身が選択するための面である。第1から第Cの感情用程度選択面それぞれは、感情情報提示用品のC+2個の面のうちの感情選択面と接するC個の面のうちの1個の面であり、感情選択面の輪郭線のうちの対応するカテゴリの感情領域の輪郭線である部分を輪郭線として含む面である。具体的には、感情情報提示用品のC+2個の面のうちの感情選択面と接するC個の面のうちの1個の面であり、感情選択面のC個の

辺のうちの、対応するカテゴリの感情領域の輪郭線にも含まれる辺、を辺として含む面（感情選択面にある対応するカテゴリの感情領域と1個の辺を共有する面）である。第1から第Cの感情用程度選択面は略合同である。

[0059] 第1から第Cの各感情用程度選択面（以下、「第c感情用程度選択面」ともいう）は、第c感情用程度選択表示と第c感情用程度選択背景領域により構成されている。第c感情用程度選択背景領域は、感情選択面の第c感情背景領域と同じ第cの基調色が与えられた領域であり、大きさを表す表示の複数個による組を1組以上含んで構成される。大きさを表す表示の複数個による組の例は、略相似な図形の複数個による組、互いに異なる数値の複数個による組、互いに個数が異なる図形の集合の複数個による組である。各組に含まれる各図形や各数値は、例えば、第cの基調色の彩度を異ならせた色などの、第cの基調色と同系統の互いに異なる色で表示されていてもよい。

[0060] [第1から第Cの感情用程度選択面領域]

第1から第Cの感情用程度選択面領域は、感情選択面を用いて幼児自身が選択したカテゴリの感情の大きさを幼児自身が選択するための面領域である。第1から第Cの感情用程度選択面領域は、感情情報提示用品のC+2個のうちの感情選択面と接するC個の面のうちの隣接する2個の面に跨る領域であり、感情選択面の輪郭線のうちの対応するカテゴリの感情領域の輪郭線である部分を輪郭線として含む面領域である。第1から第Cの感情用程度選択面領域は、略合同な領域である。第1から第Cの各感情用程度選択面領域内の構成及び特徴は、第1から第Cの各感情用程度選択面内の構成及び特徴と同様である。

[0061] [非選択面]

感情情報提示用品が非選択面を含む場合には、非選択面は、感情情報提示用品のC+2個の面のうちの感情選択面と接しない面であり、幼児が誤って選択しないように、感情選択面の中立領域が選択される領域である場合には第1～第C+1の基調色の何れとも異なる所定の第C+2の基調色が与えられた領域であり、感情選択面が中立領域を含まない場合には、第1～第Cの

基調色の何れとも異なる所定の第 $C + 1$ の基調色が与えられた領域である。
感情選択面の中立領域が選択されない領域である場合には、非選択面の基調色は感情選択面の中立領域と同じであってもよい。

[0062] [第2感情選択面]

感情情報提示用品が第2感情選択面を含む場合には、第2感情選択面は、感情情報提示用品の $C + 2$ 個の面のうちの感情選択面と接しない面であり、感情選択面と同様に C 個の感情のカテゴリの何れかを幼児自身が選択するための面である。第2感情選択面の構成としての特徴は感情選択面と同様である。ただし、第2感情選択面は、感情情報提示用品の感情選択面と対向する面であることから、感情選択面を鏡像としたもの、感情選択面を鏡像としたものにおける各感情顔領域の顔を模した絵の向きを上下反転させたもの、などとなる。

[0063] <第2例>

C 個（ C は2以上の整数）の感情のカテゴリを対象とする感情情報提示用品であれば、例えば略球形や略回転楕円体（略長球形）の立体物で実現できる。この形態を第2例として説明する。感情情報提示用品は、1個の感情選択面領域と、 C 個の感情用程度選択面領域を含む。感情情報提示用品は、非選択面領域または第2感情選択面領域を含んでいてもよい。

[0064] [感情選択面領域]

感情選択面領域は、 C 個の感情のカテゴリの何れかを幼児自身が選択するための面である。感情選択面領域は、感情情報提示用品が略球形の場合は感情情報提示用品の表面上のある一点を重心とする面領域であり、感情情報提示用品が略回転楕円体である場合には感情情報提示用品の表面上のある回転軸上の一方の点を重心とする面領域であり、第1から第 C の C 個の感情領域を含み、中立領域を含んでいてもよい。第1から第 C の C 個の感情領域は、感情選択面領域の輪郭線の略 C 分の1を輪郭線に含む略合同の領域である。例えば、第1から第 C の C 個の感情領域は、感情選択面領域と接する C 個の感情用程度選択面領域それぞれが感情選択面領域と共有する C 個の辺のうち

のそれぞれ異なる何れか 1 個の辺を辺として含む略合同な領域である。C 個の各感情領域が前述した条件を満たすようにする感情選択面領域の形状の一例は輪郭線が円である球面形状であるが、感情選択面領域の形状は、C 個の各感情領域が前述した条件を満たす形状であればどのような形状であってもよい。C 個の各感情領域は、形状と大きさ以外については第 1 例の各感情領域と同様である。中立領域は、形状と大きさ以外については第 1 例の中立領域と同様である。

[0065] [第 1 から第 C の感情用程度選択面領域]

第 1 から第 C の感情用程度選択面領域は、感情選択面領域を用いて幼児自身が選択したカテゴリの感情の大きさを幼児自身が選択するための面領域である。第 1 から第 C の感情用程度選択面領域は、感情情報提示用品の表面のうちの感情選択面領域と接する C 個の面領域であり、感情選択面領域の輪郭線のうちの対応するカテゴリの感情領域の輪郭線である部分を輪郭線として含む略合同な面領域である。各感情用程度選択面領域は、形状と大きさ以外については第 1 例の各感情用程度選択面領域と同様である。

[0066] [非選択面領域]

感情情報提示用品が非選択面領域を含む場合には、非選択面領域は、感情情報提示用品の感情選択面領域の重心を通る軸上の感情情報提示用品の表面上の 2 点のうちの感情選択面領域の重心ではないほうの点を重心とする面領域である。非選択面領域は、形状と大きさ以外については第 1 例の非選択面と同様である。

[0067] [第 2 感情選択面領域]

感情情報提示用品が第 2 感情選択面領域を含む場合には、第 2 感情選択面領域は、感情情報提示用品の感情選択面領域の重心を通る軸上の感情情報提示用品の表面上の 2 点のうちの感情選択面領域の重心ではないほうの点を重心とする面領域であり、感情選択面領域と同様に C 個の感情のカテゴリの何れかを幼児自身が選択するための面である。第 2 感情選択面領域の構成としての特徴は感情選択面領域と同様である。ただし、第 2 感情選択面領域は、

感情情報提示用品の感情選択面領域と対向する面領域であることから、感情選択面領域を鏡像としたもの、感情選択面領域を鏡像としたものにおける各感情顔領域の顔を模した絵の向きを上下反転させたもの、これらの何れかと略相似なもの、などとなる。

[0068] <まとめ>

以上の説明から分かる通り、第1から第C（Cは2以上の整数）のC個の感情のカテゴリ（「第cカテゴリ」という。cは1以上C以下の各整数。）を対象とする感情情報提示用品は、立体物の表面には感情選択面領域と第1感情用程度選択面領域から第C感情用程度選択面領域のC個の感情用程度選択面領域を少なくとも含み、第1の基調色から第Cの基調色のC個の基調色それぞれ（「第cの基調色」という）は互いに異なり、感情選択面領域は感情選択面領域の輪郭線のうちの略同じ長さで互いに異なる部分を輪郭線に含む略合同の領域である第1感情領域から第C感情領域のC個の感情領域を少なくとも含み、第1感情領域から第C感情領域のC個の感情領域のそれぞれ（「第c感情領域」という）は、当該第c感情領域が対応する感情のカテゴリである第cカテゴリの感情のときの顔を模した絵が表示された領域である第c感情顔領域と、第cの基調色が与えられた領域である第c感情背景領域と、により構成され、第1感情用程度選択面領域から第C感情用程度選択面領域のC個の感情用程度選択面領域は略合同な領域であり、第1感情用程度選択面領域から第C感情用程度選択面領域のC個の感情用程度選択面領域のそれぞれは、感情選択面領域の第c感情領域と接している面領域であり、第cの基調色が与えられ、互いに異なる大きさの程度を表す表示の複数個による組を含むものである。

[0069] 感情選択面領域と第1感情用程度選択面領域から第C感情用程度選択面領域のC個の感情用程度選択面領域のそれぞれを立体物の面を用いて構成する場合には、第1から第C（Cは2以上の整数）のC個の感情のカテゴリ（「第cカテゴリ」という。cは1以上C以下の各整数。）を対象とする感情情報提示用品は、立体物の表面には感情選択面と第1感情用程度選択面から第

C感情用程度選択面のC個の感情用程度選択面を少なくとも含み、第1の基調色から第Cの基調色のC個の基調色それぞれ（「第cの基調色」という）は互いに異なり、感情選択面は感情選択面の輪郭線のうちの略同じ長さで互いに異なる部分を輪郭線に含む略合同の領域である第1感情領域から第C感情領域のC個の感情領域を少なくとも含み、第1感情領域から第C感情領域のC個の感情領域のそれぞれ（「第c感情領域」という）は、当該第c感情領域が対応する感情のカテゴリである第cカテゴリの感情のときの顔を模した絵が表示された領域である第c感情顔領域と、第cの基調色が与えられた領域である第c感情背景領域と、により構成され、第1感情用程度選択面から第C感情用程度選択面のC個の感情用程度選択面は略合同であり、第1感情用程度選択面から第C感情用程度選択面のC個の感情用程度選択面のそれぞれは、感情選択面の第c感情領域と接している面であり、第cの基調色が与えられ、互いに異なる大きさの程度を表す表示の複数個による組を含むものである。

[0070] なお、上述したように、感情選択面領域は、感情選択面領域の輪郭線のうちの略同じ長さで互いに異なる部分を輪郭線に含む略合同の領域である第1感情領域から第C感情領域のC個の感情領域を少なくとも含めばよく、感情選択面領域の輪郭線には、第1感情用程度選択面領域から第C感情用程度選択面領域のC個の感情用程度選択面領域の何れとも接しない部分が含まれていてもよい。同様に、感情選択面は、感情選択面の輪郭線のうちの略同じ長さで互いに異なる部分を輪郭線に含む略合同の領域である第1感情領域から第C感情領域のC個の感情領域を少なくとも含めばよく、感情選択面の輪郭線には、第1感情用程度選択面から第C感情用程度選択面のC個の感情用程度選択面の何れとも接しない部分が含まれていてもよい。より具体的には、例えば、2C個の側面のうちの1個おきのC個の側面が略合同である略2C角柱の立体物で感情情報提示用品を実現してもよく、この場合には、C個の略合同な側面を第1感情用程度選択面から第C感情用程度選択面とし、略2C角形の底面の一方を感情選択面とすればよい。

[0071] <第4実施形態>

例えば内部にスポンジや綿や空気が充填された感情情報提示用品と略同じ形状の立体物があれば、布などの素材で製作したカバーを当該立体物に被せることで、上述した各実施形態の感情情報提示用品とすることができる。

[0072] 例えば、第1実施形態の感情情報提示用品10を製作するための感情情報提示用品用カバー11であれば、図10に例示するように、感情情報提示用品10の展開図と、感情情報提示用品10の展開図の輪郭線のうちの感情情報提示用品10において同じ辺となる2辺の何れか一方に付加された接合面300-1～300-7と、により構成される表面を有し、接合面300-1～300-7と各接合面が対向する感情情報提示用品10の展開図の裏面とに面ファスナーなどの容易に接合可能な接合部材を備えた構成とすればよい。また例えば、線ファスナーを用いた感情情報提示用品用カバーであれば、上述した接合面を備える必要はなく、感情情報提示用品10の展開図の輪郭線のうちの感情情報提示用品10において同じ辺となる2辺に接合可能な線ファスナーを備えた構成とすればよい。上述した各実施形態や変形例の感情情報提示用品を製作するための感情情報提示用品用カバーについても同様である。図2と図10を対比すれば分かる通り、当然ながら、感情情報提示用品の展開図は当該感情情報提示用品をどのように展開したものであってもよい。すなわち、感情情報提示用品用カバーは、感情情報提示用品の展開図を少なくとも含む表面を有し、展開図の輪郭線のうちの感情情報提示用品において同じ辺となる2辺を接合するための接合機構を備えていればよい。なお、感情情報提示用品用カバーは、展開図の輪郭線のうちの感情情報提示用品において同じ辺となる2辺を接合することにより感情情報提示用品とすることが可能であればよいので、展開図を構成する複数個の部分図それぞれを含む表面を有する複数の部品に分かれていてもよい。

[0073] <第5実施形態>

上述した第1実施形態から第3実施形態や変形例の感情情報提示用品、第4実施形態の感情情報提示用品用カバーを教育者／養育者などが容易に製作

できるようにするとよく、そのためには、第1実施形態から第3実施形態や変形例の感情情報提示用品の展開図、第4実施形態の感情情報提示用品用カバーの展開図、これらの何れかの展開図が複数個に分割されて接合部分が明示された図の組、の少なくとも何れかの型紙を販売、配付、配布などにより流通できるようにするとよい。具体的には、紙に印刷した型紙を販売、配付、配布などにより流通させる場合であれば、第1実施形態から第3実施形態や変形例の感情情報提示用品の展開図、第4実施形態の感情情報提示用品用カバーの展開図、これらの何れかの展開図が複数個に分割されて接合部分が明示された図の組、の少なくとも何れかを表面に印刷した紙を型紙として販売、配付、配布などにより流通させればよい。また、少なくとも何れかの型紙の画像の電子ファイルをサーバコンピュータに接続されたコンピュータで読み取り可能な記録媒体、例えば磁気記録装置や光ディスクなどの非一時的な記録媒体、に記録しておき、ネットワークを介してサーバコンピュータから他のコンピュータに型紙の画像の電子ファイルを転送することにより、型紙の画像の電子ファイルを流通させる構成としてもよい。また、少なくとも何れかの型紙の画像の電子ファイルをDVD、CD-ROMなどの可搬型記録媒体に記録して、当該可搬型記録媒体を販売、譲渡、貸与等することによって型紙の画像の電子ファイルを流通させてもよい。もちろん、印刷された型紙や型紙の画像の電子ファイルに加えて、感情情報提示用品の各面、各面領域、複数の連続する面、複数の連続する面領域、などをプリントや刺繍などにより表示した布のセットも販売、配付、配布などにより流通させてもよい。

[0074] その他、この発明の趣旨を逸脱しない範囲で適宜変更が可能であることはいうまでもない。

請求の範囲

[請求項1]

略正六面体の立体物の感情情報提示用品であって、

前記立体物の表面の6個の面には、感情選択面、第1感情用程度選択面、第2感情用程度選択面、第3感情用程度選択面、第4感情用程度選択面、を少なくとも含み、

前記感情選択面は、前記感情選択面と接する4個の面それぞれと感情選択面とが共有する4個の辺のうちのそれぞれ異なる1個の辺を辺として含む領域であり、略合同な領域である、第1感情領域、第2感情領域、第3感情領域、第4感情領域を含み、

前記第1感情領域は、嬉しいときの顔を模した絵が表示された領域である第1感情顔領域と、嬉しい感情に対応する色として予め定められた第1の基調色が与えられた領域である第1感情背景領域と、により構成され、

前記第2感情領域は、悲しいときの顔を模した絵が表示された領域である第2感情顔領域と、悲しい感情に対応する色として予め定められた第2の基調色が与えられた領域である第2感情背景領域と、により構成され、

前記第3感情領域は、怒っているときの顔を模した絵が表示された領域である第3感情顔領域と、怒っている感情に対応する色として予め定められた第3の基調色が与えられた領域である第3感情背景領域と、により構成され、

前記第4感情領域は、恐がっているときの顔を模した絵が表示された領域である第4感情顔領域と、恐がっている感情に対応する色として予め定められた第4の基調色が与えられた領域である第4感情背景領域と、により構成され、

前記第1の基調色と前記第2の基調色と前記第3の基調色と前記第4の基調色とは互いに異なり、

前記第1感情用程度選択面は、前記感情選択面の前記第1感情領域

と接している面であり、前記第1の基調色が与えられ、互いに異なる大きさの程度を表す表示の複数個による組を含み、

前記第2感情用程度選択面は、前記感情選択面の前記第2感情領域と接している面であり、前記第2の基調色が与えられ、互いに異なる大きさの程度を表す表示の複数個による組を含み、

前記第3感情用程度選択面は、前記感情選択面の前記第3感情領域と接している面であり、前記第3の基調色が与えられ、互いに異なる大きさの程度を表す表示の複数個による組を含み、

前記第4感情用程度選択面は、前記感情選択面の前記第4感情領域と接している面であり、前記第4の基調色が与えられ、互いに異なる大きさの程度を表す表示の複数個による組を含む

ことを特徴とする感情情報提示用品。

[請求項2]

略正六面体の立体物の感情情報提示用品であって、

前記立体物の表面の6個の面には、感情選択面、程度選択用第1面、程度選択用第2面、程度選択用第3面、程度選択用第4面、を少なくとも含み、

前記程度選択用第1面は、前記感情選択面と前記程度選択用第4面と前記程度選択用第2面に接する面であり、

前記程度選択用第2面は、前記感情選択面と前記程度選択用第1面と前記程度選択用第3面に接する面であり、

前記程度選択用第3面は、前記感情選択面と前記程度選択用第2面と前記程度選択用第4面に接する面であり、

前記程度選択用第4面は、前記感情選択面と前記程度選択用第3面と前記程度選択用第1面に接する面であり、

前記感情選択面は、前記感情選択面と接する4個の面それぞれと前記感情選択面とが共有する4個の辺それぞれを略2等分した線分8個のうちの頂点を挟んで隣接する2個の線分による組を輪郭線として含む領域であり、略合同な領域である、第1感情領域、第2感情領域、

第3感情領域、第4感情領域を含み、

前記第1感情領域は、嬉しいときの顔を模した絵が表示された領域である第1感情顔領域と、嬉しい感情に対応する色として予め定められた第1の基調色が与えられた領域である第1感情背景領域と、により構成され、

前記第2感情領域は、悲しいときの顔を模した絵が表示された領域である第2感情顔領域と、悲しい感情に対応する色として予め定められた第2の基調色が与えられた領域である第2感情背景領域と、により構成され、

前記第3感情領域は、怒っているときの顔を模した絵が表示された領域である第3感情顔領域と、怒っている感情に対応する色として予め定められた第3の基調色が与えられた領域である第3感情背景領域と、により構成され、

前記第4感情領域は、恐がっているときの顔を模した絵が表示された領域である第4感情顔領域と、恐がっている感情に対応する色として予め定められた第4の基調色が与えられた領域である第4感情背景領域と、により構成され、

前記第1の基調色と前記第2の基調色と前記第3の基調色と前記第4の基調色とは互いに異なり、

前記程度選択用第1面と前記程度選択用第2面に跨る領域であり、前記感情選択面の輪郭線のうちの前記第1感情領域の輪郭線である部分を輪郭線として含む面領域が、第1感情用程度選択面領域とされており、

前記程度選択用第2面と前記程度選択用第3面に跨る領域であり、前記感情選択面の輪郭線のうちの前記第2感情領域の輪郭線である部分を輪郭線として含む面領域が、第2感情用程度選択面領域とされており、

前記程度選択用第3面と前記程度選択用第4面に跨る領域であり、

前記感情選択面の輪郭線のうちの前記第3感情領域の輪郭線である部分を輪郭線として含む面領域が、第3感情用程度選択面領域とされており、

前記程度選択用第4面と前記程度選択用第1面に跨る領域であり、前記感情選択面の輪郭線のうちの前記第4感情領域の輪郭線である部分を輪郭線として含む面領域が、第4感情用程度選択面領域とされており、

前記第1感情用程度選択面領域と前記第2感情用程度選択面領域と前記第3感情用程度選択面領域と前記第4感情用程度選択面領域は略合同であり、

前記第1感情用程度選択面領域は、前記第1の基調色が与えられ、互いに異なる大きさの程度を表す表示の複数個による組を含み、

前記第2感情用程度選択面領域は、前記第2の基調色が与えられ、互いに異なる大きさの程度を表す表示の複数個による組を含み、

前記第3感情用程度選択面領域は、前記第3の基調色が与えられ、互いに異なる大きさの程度を表す表示の複数個による組を含み、

前記第4感情用程度選択面領域は、前記第4の基調色が与えられ、互いに異なる大きさの程度を表す表示の複数個による組を含む

ことを特徴とする感情情報提示用品。

[請求項3] 第1から第C（Cは2以上の整数）のC個の感情のカテゴリ（以下、「第cカテゴリ」という。cは1以上C以下の各整数。）を対象とする立体物の感情情報提示用品であって、

前記立体物の表面には、感情選択面と、第1感情用程度選択面から第C感情用程度選択面のC個の感情用程度選択面を少なくとも含み、

第1の基調色から第Cの基調色のC個の基調色それぞれ（以下、「第cの基調色」という）は互いに異なり、

前記感情選択面は、前記感情選択面の輪郭線のうちの略同じ長さで互いに異なる部分を輪郭線に含む略合同の領域である第1感情領域か

ら第C感情領域のC個の感情領域を少なくとも含み、

前記第1感情領域から前記第C感情領域のC個の感情領域のそれぞれ（以下、「第c感情領域」という）は、当該第c感情領域が対応する感情のカテゴリである前記第cカテゴリの感情のときの顔を模した絵が表示された領域である第c感情顔領域と、前記第cの基調色が与えられた領域である第c感情背景領域と、により構成され、

前記第1感情用程度選択面から前記第C感情用程度選択面のC個の感情用程度選択面は、略合同であり、

前記第1感情用程度選択面から前記第C感情用程度選択面のC個の感情用程度選択面のそれぞれは、前記感情選択面の前記第c感情領域と接している面であり、前記第cの基調色が与えられ、互いに異なる大きさの程度を表す表示の複数個による組を含む

ことを特徴とする感情情報提示用品。

[請求項4]

第1から第C（Cは2以上の整数）のC個の感情のカテゴリ（以下、「第cカテゴリ」という。cは1以上C以下の各整数。）を対象とする立体物の感情情報提示用品であって、

前記立体物の表面には、感情選択面領域と、第1感情用程度選択面領域から第C感情用程度選択面領域のC個の感情用程度選択面領域を少なくとも含み、

第1の基調色から第Cの基調色のC個の基調色それぞれ（以下、「第cの基調色」という）は互いに異なり、

前記感情選択面領域は、前記感情選択面領域の輪郭線のうちの略同じ長さで互いに異なる部分を輪郭線に含む略合同の領域である第1感情領域から第C感情領域のC個の感情領域を少なくとも含み、

前記第1感情領域から前記第C感情領域のC個の感情領域のそれぞれ（以下、「第c感情領域」という）は、当該第c感情領域が対応する感情のカテゴリである前記第cカテゴリの感情のときの顔を模した絵が表示された領域である第c感情顔領域と、前記第cの基調色が与

えられた領域である第c感情背景領域と、により構成され、

前記第1感情用程度選択面領域から前記第C感情用程度選択面領域のC個の感情用程度選択面領域は、略合同な領域であり、

前記第1感情用程度選択面領域から前記第C感情用程度選択面領域のC個の感情用程度選択面領域のそれぞれは、前記感情選択面領域の前記第c感情領域と接している面領域であり、前記第cの基調色が与えられ、互いに異なる大きさの程度を表す表示の複数個による組を含む

ことを特徴とする感情情報提示用品。

[請求項5]

請求項1から4の何れかに記載の感情情報提示用品であって、

前記互いに異なる大きさの程度を表す表示の複数個（以下、「N個」という）による組は、

互いに異なる大きさの略相似な図形のN個による組、

互いに異なる数値のN個による組、

互いに異なる個数の所定の形状の図形の集合のN個による組、

の少なくとも何れかである

ことを特徴とする感情情報提示用品。

[請求項6]

立体物に被せることで請求項1から5の何れかに記載の感情情報提示用品とするための感情情報提示用品用カバーであって、

前記感情情報提示用品の展開図を少なくとも含む表面を有し、

前記展開図の輪郭線のうちの前記感情情報提示用品において同じ辺となる2辺を接合するための接合機構を備える

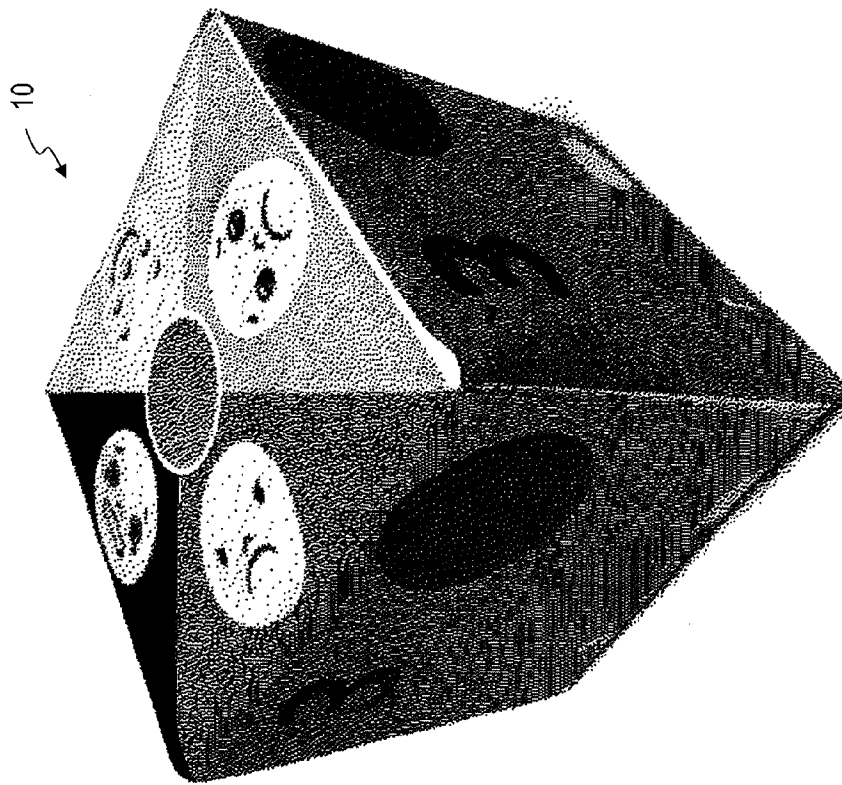
ことを特徴とする感情情報提示用品用カバー。

[請求項7]

請求項1から5の何れかに記載の感情情報提示用品の展開図、請求項6に記載の感情情報提示用品用カバーの展開図、前記何れかの展開図が複数個に分割されて接合部分が明示された図の組、の少なくとも何れかが表面に印刷されていることを特徴とする感情情報提示用品用型紙。

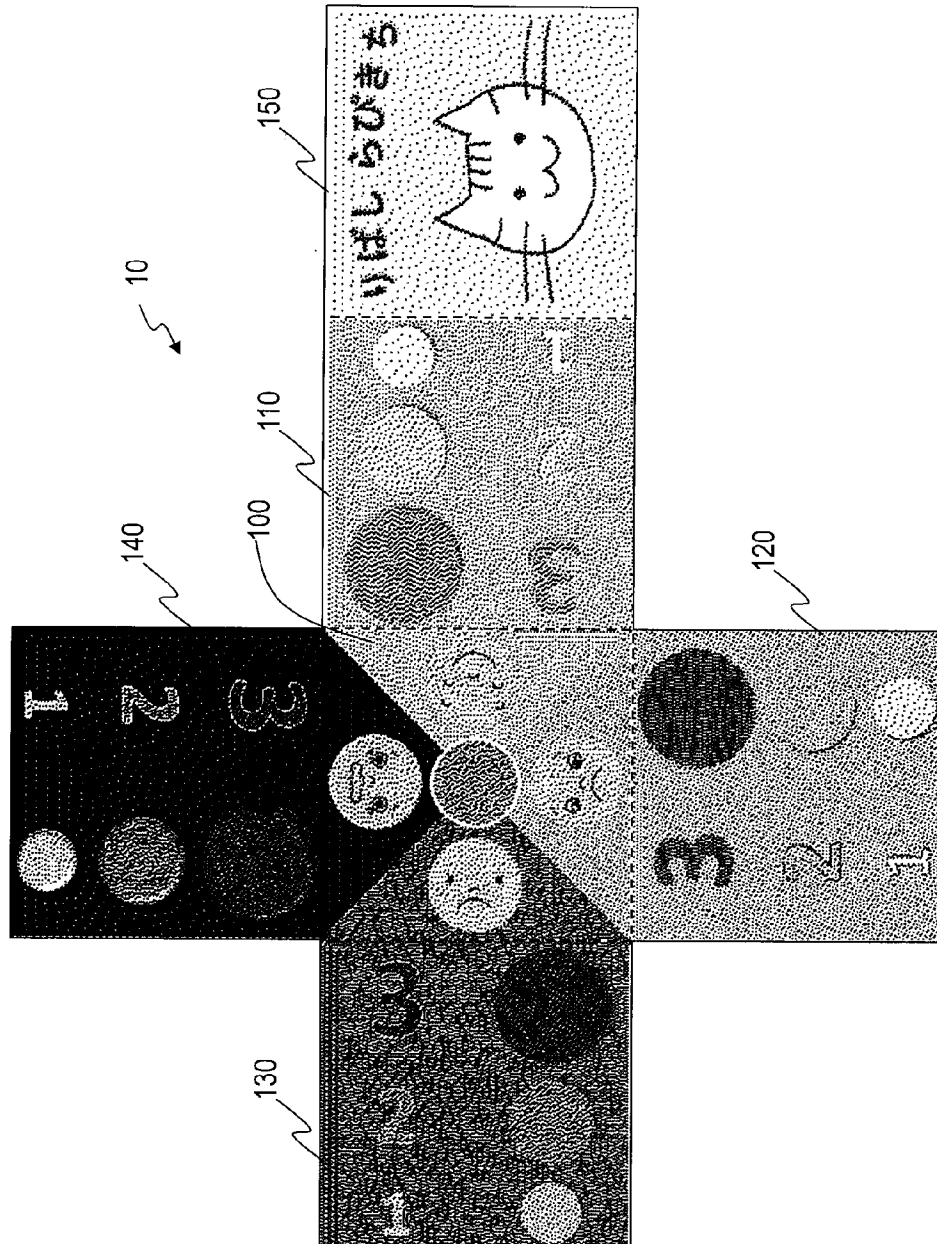
[請求項8] 請求項 1 から 5 の何れかに記載の感情情報提示用品の展開図、請求項 6 に記載の感情情報提示用品用カバーの展開図、前記何れかの展開図が複数個に分割されて接合部分が明示された図の組、の少なくとも何れかの画像を記録したことを特徴とする電子ファイルである感情情報提示用品用型紙。

[図1]



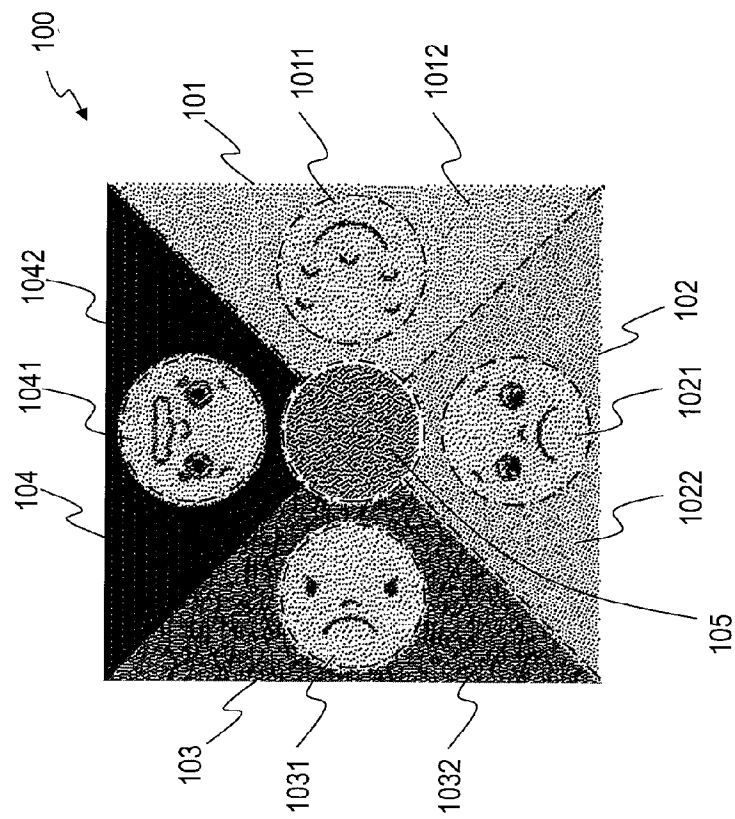
[図1]

[図2]



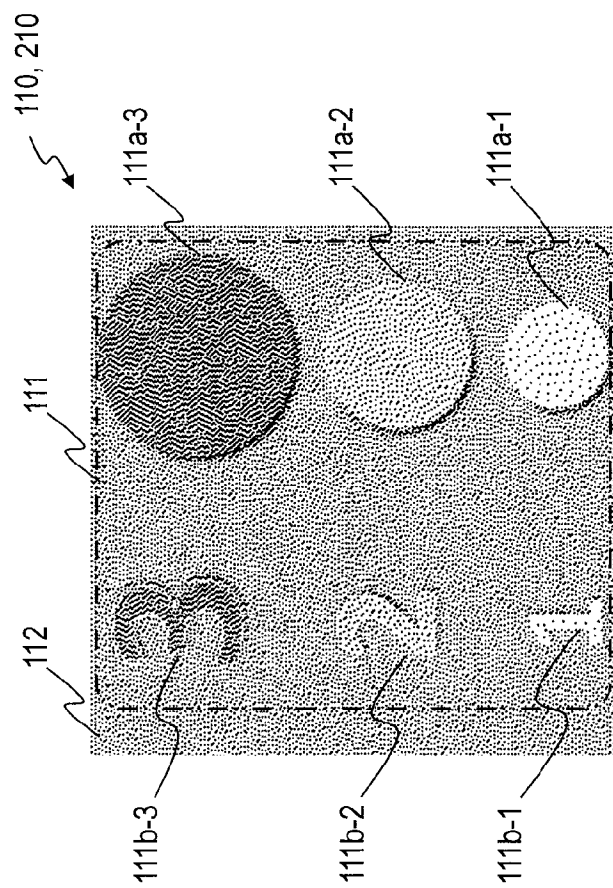
[図2]

[図3]



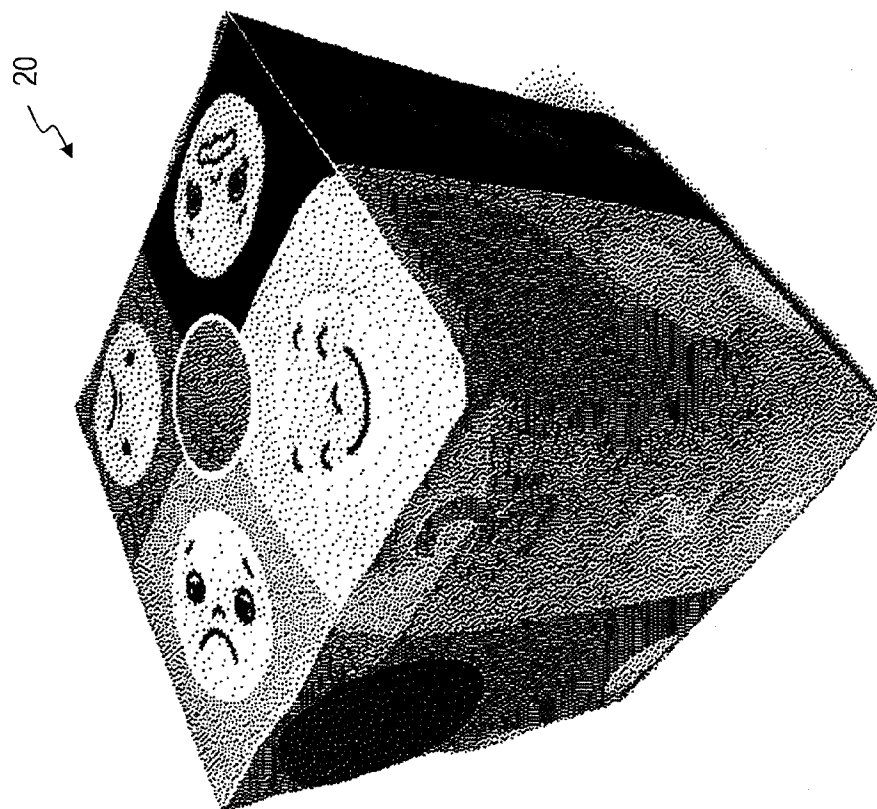
[図3]

[図4]



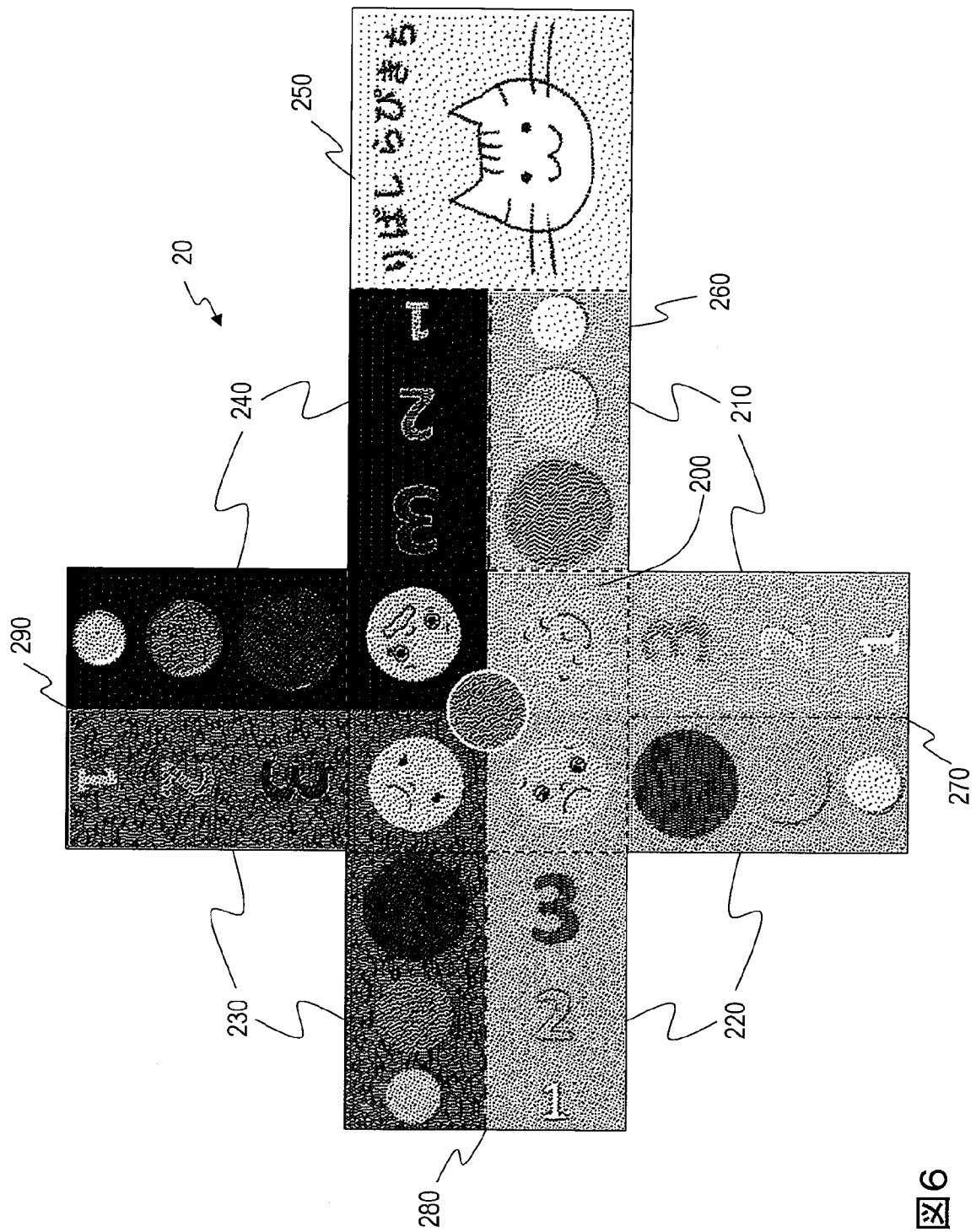
[図4]

[図5]



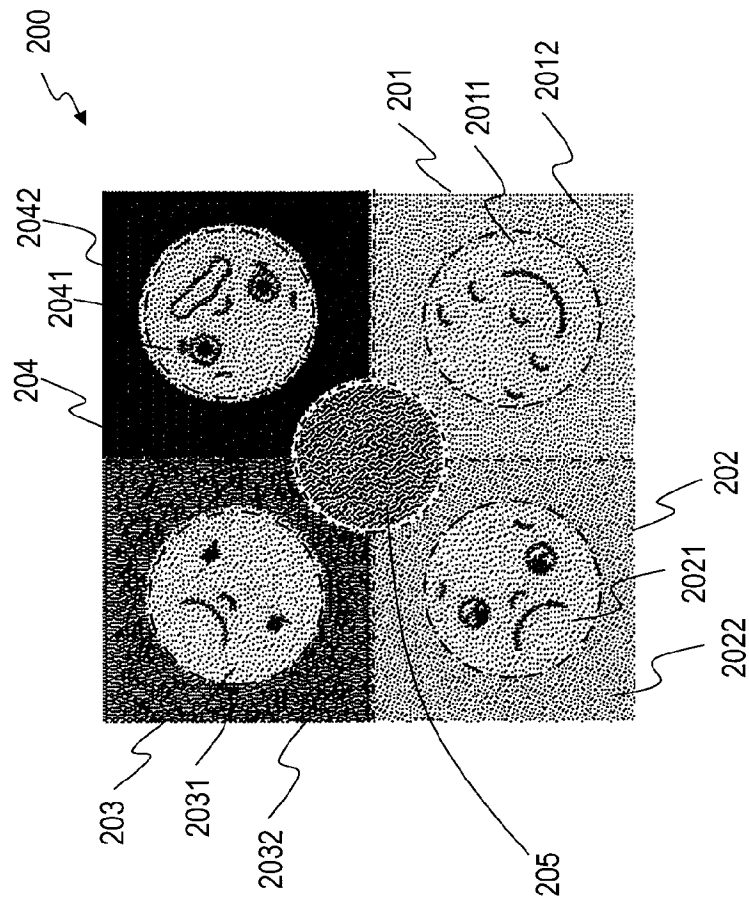
[図5]

[図6]



[図6]

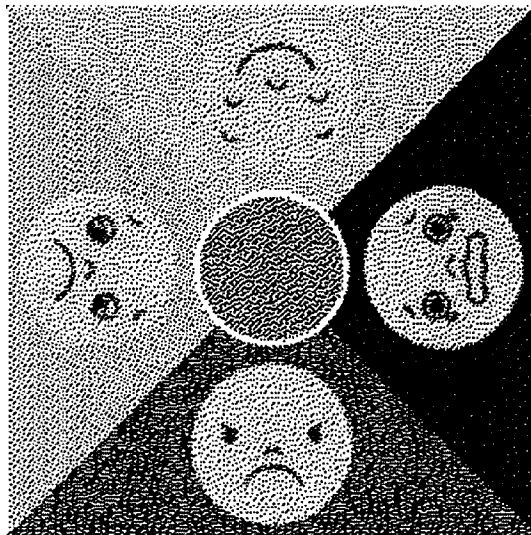
[図7]



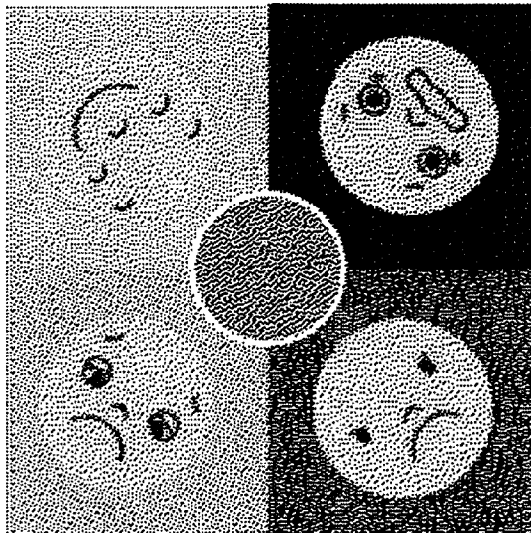
[図7]

[図8]

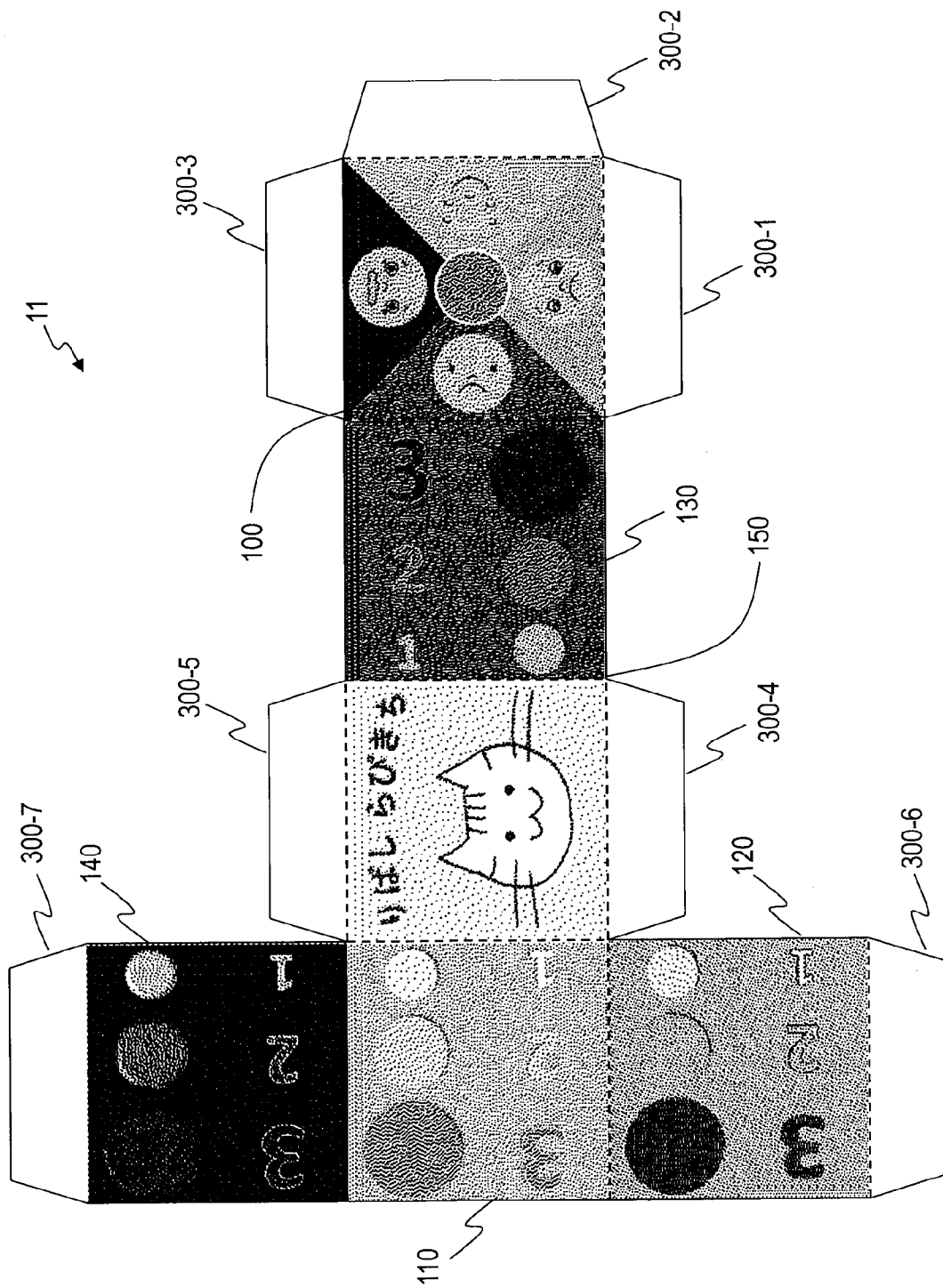
100'

8
[X]

[図9]

200'
↘9
[X]

[図10]



[図10]

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2020/032556

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl. A63H33/00 (2006.01) i, G09B19/00 (2006.01) i
FI: A63H33/00302Z, G09B19/00Z

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl. A63H33/00, G09B19/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan	1922-1996
Published unexamined utility model applications of Japan	1971-2020
Registered utility model specifications of Japan	1996-2020
Published registered utility model applications of Japan	1994-2020

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	US 2002/0009696 A1 (LUI, B. J.) 24 January 2002 (2002-01-24), paragraph [0041], fig. 1	1-8
A	US 2004/0106091 A1 (WEINER, A. G.) 03 June 2004 (2004-06-03), paragraphs [0016]-[0028], fig. 1	1-8
A	US 2009/0239203 A1 (FUN FACTORY EDUCATION CORP.) 24 September 2009 (2009-09-24), paragraphs [0009]-[0051], fig. 1, 2	1-8
A	US 2002/0070498 A1 (CHAMBERS, K. J.) 13 June 2002 (2002-06-13), paragraphs [0004]-[0018]	1-8
A	JP 3141768 U (ITO, Kayoko) 22 May 2008 (2008-05-22), paragraphs [0032], [0041], fig. 17, 20	1-8



Further documents are listed in the continuation of Box C.



See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

28 September 2020

Date of mailing of the international search report

20 October 2020

Name and mailing address of the ISA/

Japan Patent Office
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2020/032556

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	ムードメーターで感情理解, note [online], 07 February 2020, https://note.com/kogamouse/n/n2efdac020ef8 , [retrieved on 28 September 2020], particularly, 「ムードメーター」の遊び方に関する項を参照, non-official translation (Understanding emotions with a mood meter, See the section on how to play "Mood Meter")	1-8
A	EQって何? -感情に名前を付けてみよう-, EQ+LAB [online], 16 May 2020, https://is-pluseq.com/1131/ , [retrieved on 28 September 2020], particularly, 「ご機嫌、いかがですか?」「感情はデータになる」の項を参照, non-official translation (What is EQ? -Let's name your emotions-, See "How are you?" And "Emotions become data.")	1-8

INTERNATIONAL SEARCH REPORT
Information on patent family members

International application No.

PCT/JP2020/032556

US 2002/0009696 A1 24 January 2002	(Family: none)
US 2004/0106091 A1 03 June 2004	(Family: none)
US 2009/0239203 A1 24 September 2009	(Family: none)
US 2002/0070498 A1 13 June 2002	US 6422558 B1 US 2004/0094893 A1
JP 3141768 U 22 May 2008	(Family: none)

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC）） A63H 33/00(2006.01)i; G09B 19/00(2006.01)i FI: A63H33/00 302Z; G09B19/00 Z		
B. 調査を行った分野		
調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC）） A63H33/00; G09B19/00		
最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの 日本国実用新案公報 1922-1996年 日本国公開実用新案公報 1971-2020年 日本国実用新案登録公報 1996-2020年 日本国登録実用新案公報 1994-2020年		
国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）		
C. 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
A	US 2002/0009696 A1 (LUI BARBARA J.) 24.01.2002 (2002 - 01 - 24) 段落0041, 第1図	1-8
A	US 2004/0106091 A1 (WEINER ANDREA GOODMAN) 03.06.2004 (2004 - 06 - 03) 段落0016-0028, 第1図	1-8
A	US 2009/0239203 A1 (FUN FACTORY EDUCATION CORP.) 24.09.2009 (2009 - 09 - 24) 段落0009-0051, 第1, 2図	1-8
A	US 2002/0070498 A1 (CHAMBERS KYLA J.) 13.06.2002 (2002 - 06 - 13) 段落0004-0018	1-8
A	JP 3141768 U (伊東 佳代子) 22.05.2008 (2008 - 05 - 22) 段落0032, 0041, 第17, 20図	1-8
A	ムードメーターで感情理解, note [online], 2020.02.07, https://note.com/kogamouse/n/n2efdac020ef8 , [2020年9月28日検索] 特に「ムードメーター」の遊び方に関する項を参照	1-8
☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。 ☒ パテントファミリーに関する別紙を参照。		
* 引用文献のカテゴリー	“T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの “X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの “Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの “&” 同一パテントファミリー文献	
“A” 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの		
“E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの		
“L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）		
“O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献		
“P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献		
国際調査を完了した日 28.09.2020	国際調査報告の発送日 20.10.2020	
名称及びあて先 日本国特許庁(ISA/JP) 〒100-8915 日本国 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	権限のある職員（特許庁審査官） 田中 洋行 2D 3818 電話番号 03-3581-1101 内線 3241	

C. 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
A	EQって何？－感情に名前を付けてみよう－, EQ+LAB [online], 2020.05.16, https://is-pluseq.com/1131/ , [2020年9月28日検索] 特に「ご機嫌、いかがですか?」「感情はデータになる」の項を参照	1-8

国際調査報告
パテントファミリーに関する情報

国際出願番号

PCT/JP2020/032556

引用文献			公表日	パテントファミリー文献	公表日
US	2002/0009696	A1	24.01.2002	(ファミリーなし)	
US	2004/0106091	A1	03.06.2004	(ファミリーなし)	
US	2009/0239203	A1	24.09.2009	(ファミリーなし)	
US	2002/0070498	A1	13.06.2002	US	6422558 B1
				US	2004/0094893 A1
JP	3141768	U	22.05.2008	(ファミリーなし)	